

2021年（令和三年）

1月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

12/17~12/23のNYMEX・WTI先物市場は、47.02~49.10ドルの範囲で推移した。

12月24日は、英国と欧州連合(EU)の通商協議の合意による投資家心理の好転で続伸した。連休前の利益確定売りもあった。2月限の終値は前日比0.11ドル高の48.23ドル。

週末25日は、クリスマス休暇につき休場。

週明け28日は、欧州でのワクチン接種開始や米追加経済政策への好感が一服、OPECプラスの減産協議の不透明感で反落した。2月限終値は前週末比0.61ドル安の47.62ドル。

29日は、来月4日のOPECプラス協議に関心が集まる中、為替市場のドル安・ユーロ高による先物原油の割安感から反発した。2月限の終値は前日比0.38ドル高の48.00ドル。

30日は、米国エネルギー情報局(EIA)の原油とガソリンの在庫取り崩し報告で続伸した。2月限の終値は前日比0.40ドル高の48.40ドル。なお、30日発表の米国稼働石油掘削機は前週末比3基増の267基と6週連続の増加となった。

31日は、休暇前の薄商いの中、米国株値上昇を受け続伸した。ただ、ドル高・ユーロ安による割高感で上値は抑えられた。2月限の終値は前日比0.12ドル高の48.52ドル。

1月1日は、新年休暇につき休場。

年明け1月4日は、OPECプラスの減産協議の不透明感と市場のリスク回避の高まりで4営業日ぶりに反落した。2月限終値は前週末比0.90ドル安の47.62ドル。

5日は、OPECプラス関係級監視委員会(JMMC)で、2月からの減産緩和をわずかな増産にとどめることを合意するとともに、サウジのアブドラアジズ・エネルギー相が2~3月に自主的に100万バレル/日の追加減産を行うと発言したことで、大幅に反発した。また、ペルシャ湾で韓国籍タンカーがイラン革命防衛隊に拿捕されたことも、地政学リスクを意識させ支援材料となった。2月限の終値は前日比2.31ドル高の49.93ドル。

6日は、前日のサウジの減産発表に加え、米国エネルギー情報局(EIA)の原油とガソリンの在庫取り崩し報告で続伸、期近物終値ベースで昨年2月以来の50ドル台を回復した。2月限の終値は前日比0.70ドル高の50.63ドル。

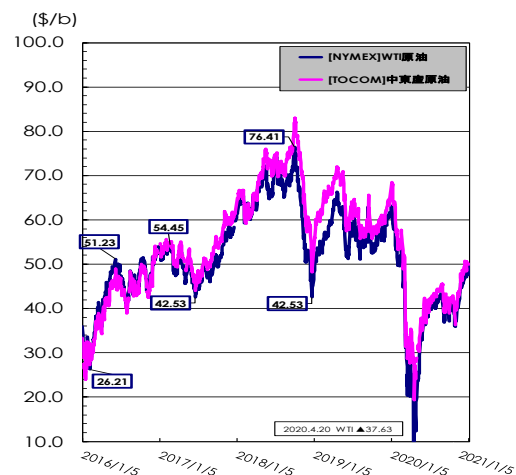
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(2月渡し)は12月17日~23日の間49.20~51.60ドルの範囲で推移した。12月24日51.20ドル、25日50.70ドル、28日50.70ドル、1月4日52.30ドル、5日50.10ドル、6日53.20ドルと推移した。

為替は12月17日~23日の間103.26~103.65円の範囲で推移した。12月24日103.63円、25日103.48円、28日103.62円、29日103.82円、30日103.50円、1月4日103.08円、5日103.15円、6日102.68円で推移した。

財務省が12月25日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格は、28,890円/klで、前旬比1,273円高、ドル建て44.05ドルで前旬比2.08ドル高、為替レートは1ドル/104.28円。

そのような中で、1月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週(12月21日)比0.7円の値上がり、軽油も同0.6円の値上がり、灯油は8円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。この週(1月第1週)の原油コストはわずかに値上がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比0.5円の引き上げとなった。

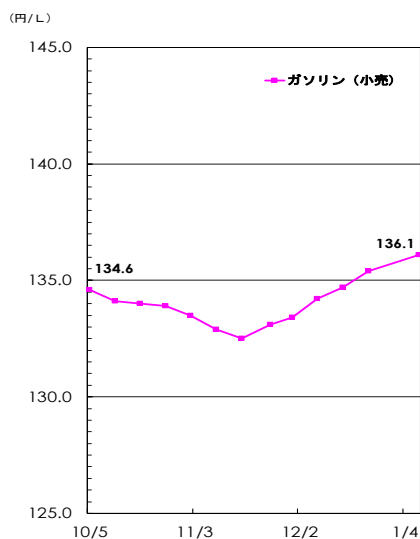
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/27 ~ 1/2	3,000 ▼ -103	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.0 ▼ -2.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/2	10,785 ▲ 286	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/5	49.90 ▼ -0.65	▼ -18.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/4	47.62 → 0.00	▼ -15.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月上旬	44.05 ▲ 2.08	▼ -23.19
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,890 ▲ 1,273	▼ -17,186
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.28 ▲ 0.32	▲ 4.66
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/4	104.08 ▲ 0.54	▲ 5.03



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/27 ~ 1/2	896 ▼ -91	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	837 ▼ -38	▼ -	
	輸出	"	115 ▲ 5	▲ -	
	在庫	1/2	1,948 ▼ -56	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/22 ~ 1/4	46.8 ▲ 0.2	▼ -15.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/22 ~ 1/4	44.1 ▲ 0.3	▼ -15.2
		(TOCOM/中部)	12/25	45.0 ▼ -1.5	▼ -15.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/4	136.1 ▲ 0.7	▼ -14.0	

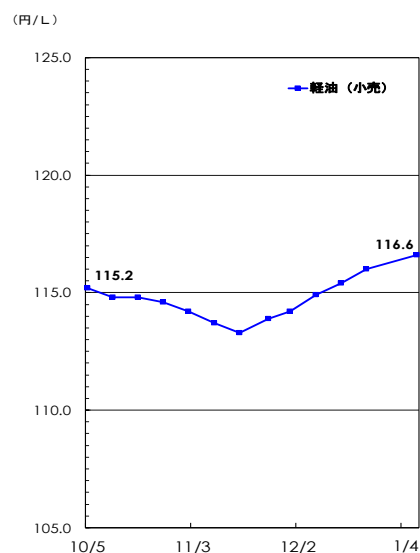
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

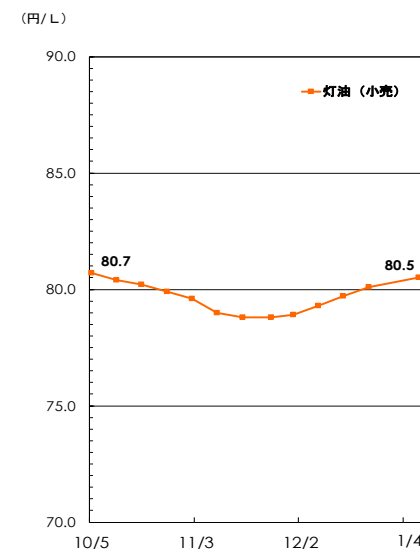
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/27 ~ 1/2	537 ▼ -202	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	254 ▼ -456	▼ -	
	輸出	"	25 ▼ -98	▼ -	
	在庫	1/2	1,716 ▲ 258	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/22 ~ 1/4	49.3 ▲ 0.2	▼ -16.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/22 ~ 1/4	50.9 ▲ 0.5	▼ -15.4
		(TOCOM/中部)	12/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/4	116.6 ▲ 0.6	▼ -13.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/27 ~ 1/2	487 ▲ 61	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	510 ▼ -82	▲ -	
	輸出	"	24 ▼ -99	▼ -	
	在庫	1/2	2,368 ▼ -47	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/22 ~ 1/4	49.5 ▲ 0.9	▼ -15.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/22 ~ 1/4	47.4 ▲ 0.3	▼ -16.1
		(TOCOM/中部)	12/25	49.5 ▲ 1.0	▼ -15.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/4	80.5 ▲ 0.4	▼ -13.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月6日のNYMEXのWTI先物原油は大幅に続伸、期近物の終値ベースで昨年2月以来約10か月ぶりに50ドル台を回復した。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油が前週末比800万バレル減(市場予想:同210万バレル減)、ガソリンが同210万バレル減といずれも市場予想を上回る在庫取り崩し報告があった。また、前日のOPECプラスのテレビによる閣僚監視委員会で、1月の協調減産水準720万バレルから、ロシアとカザフスタン両国に減産緩和を認め、全体の減産水準を2月712.5万バレル・3月705万バレルで合意し、事前の50万バレル減産緩和予想を大幅に圧縮したこと、加えて、会合後の記者会見で、サウジのアブドルアジズ・エネルギー相が、2~3月サウジは自主的に100

万バレルの減産を行うと発表したことで、需給が締まるとの見通しが強まった。米国株式市場の好調も支援材料となった。2月限の終値は前日比0.70ドル高の50.63ドル、3月限の終値は同0.68ドル高の50.69ドル。

EIAによると、12月28日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.9セント値上がりの1ガロン2.243ドル(61.9円/ℓ)、ディーゼルは同1.6セント値上がりの2.635ドル(72.6円/ℓ)となった。また、1月4日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値上がりの1ガロン2.249ドル(61.8円/ℓ)、ディーゼルは同0.5セント値上がりの2.640ドル(72.5円/ℓ)となった。ガソリンは6連続の値上がり、ディーゼルは9週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年12月27日~1月2日に休止したトッパー能力は13.6万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は300.0万klと、前週に比べ10.3万kl減少。前年に対しては56.9万klの減少。トッパー稼働率は78.0%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては13.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.2%減、ジェット/21.5%減、灯油/14.3%増、軽油/27.3%減、A重油/44.5%減、C重油/32.2%減。今週のC重油の輸入は1.6万kl(前週比1.2万kl増)。軽油の輸出は2.5万kl(前週比9.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で全油種で減少となった。前年比では灯油、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は83.7万kl(対前週4.4%減)と2週振りで減少した。ジェット4.5万kl(対前週24.7%減)、灯油51.0万kl(対前週13.8%減)、軽油25.4万kl(対前週64.2%減)、A重油13.3万kl(対前週61.0%減)、C重油

10.1万kl(対前週62.2%減)。

(単位:千kl)

	今週 (12/27 ~ 1/2)	前週 (12/20 ~ 12/26)	前週比
ガソリン	837	875	▼ -38 (-4%)
ジェット燃料	45	60	▼ -15 (-25%)
灯油	510	592	▼ -82 (-14%)
軽油	254	710	▼ -456 (-64%)
A重油	133	342	▼ -209 (-61%)
C重油	101	269	▼ -168 (-62%)
合計	1,880	2,848	▼ -968 (-34%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月2日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、灯油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは194.8万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては29.0万kl多い。

灯油は236.8万kl、前週差4.7万kl減。前年に対しては5.3万kl少ない。

軽油は171.6万kl、前週差25.8万kl増。前年に対しては5.3万kl多い。

A重油は77.0万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては0.2万kl多い。

C重油は195.7万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては5.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (1/2)	前週 (12/26)	前週比
ガソリン	1,948	2,004	▼ -56 (-3%)
ジェット燃料	764	767	▼ -3 (-0%)
灯油	2,368	2,415	▼ -47 (-2%)
軽油	1,716	1,458	▲ 258 (18%)
A重油	770	768	▲ 2 (0%)
C重油	1,957	1,908	▲ 49 (3%)
合計	9,523	9,320	▲ 203 (2.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月22日～1月4日の指標原油価格は前週比でわずかに値上がりし、為替レートもわずかに円安で、円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月22日～1月4日の製品スポット市況は、12月15日～21日平均と比べ、海上のガソリン・灯油を除き、他の油種・取引で値上がりした。

直近(12/22～1/4)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前々週・前週(12/15～12/21)比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。直近週(12/22～1/4)において、ガソリンは100円台でわずかに値上がり、灯油は49円台で値上がり、軽油は49円台でわずかに値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(12/22～1/4)に、前週比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は0.1円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(12/22～1/4)に、ガソリンは102円台で横ばい、灯油は46～47円台で値下がり、軽油は51円台で横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。先物価格は、同期間(12/22～1/4)に、ガソリン97～98円台で出入り後激しく値上がり、灯油47～48円台で出入り後激しく値上がり、軽油50～51円台で出入り後値を戻して推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (12/22 ~ 1/4)	前週 (12/15 ~ 12/21)	前週比
	レギュラー	46.8	46.6
灯油	49.5	48.6	▲ 0.9
軽油	49.3	49.1	▲ 0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (12/22 ~ 1/4)	前週 (12/15 ~ 12/21)	前週比
	レギュラー	44.1	43.8
灯油	47.4	47.1	▲ 0.3
軽油	50.9	50.4	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/22～1/4実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.3
灯油	▲ 0.9	▲ 0.3	▲ 0.6
軽油	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.3
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(12月21日)比0.7円高の136.1円、軽油も同0.6円高の116.6円、灯油は18%ベースで同8円高の1,449円(1%ベースでは80.5円の高)の同0.4円高)。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは38都道府県、横ばいは2県、値下がり7府県となった。全国最安値は128.3円の徳島県(同1.0円安)、その次に安かったのは130.4円の宮城県(前週比1.6円高)、最高値は146.0円の鹿児島県(同1.2円高)だった。最も値上がりしたのは、同3.3円高の佐賀県(141.0円)、横ばいは栃木県・岡山県の2県、最も値下がりしたのは、同2.0円安の愛知県(133.9円)だった。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/4)	前週 (12/21)	前週比	直近高値
レギュラー	136.1	135.4	▲ 0.7	08/8/4 185.1
灯油	80.5	80.1	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	116.6	116.0	▲ 0.6	08/8/4 167.4

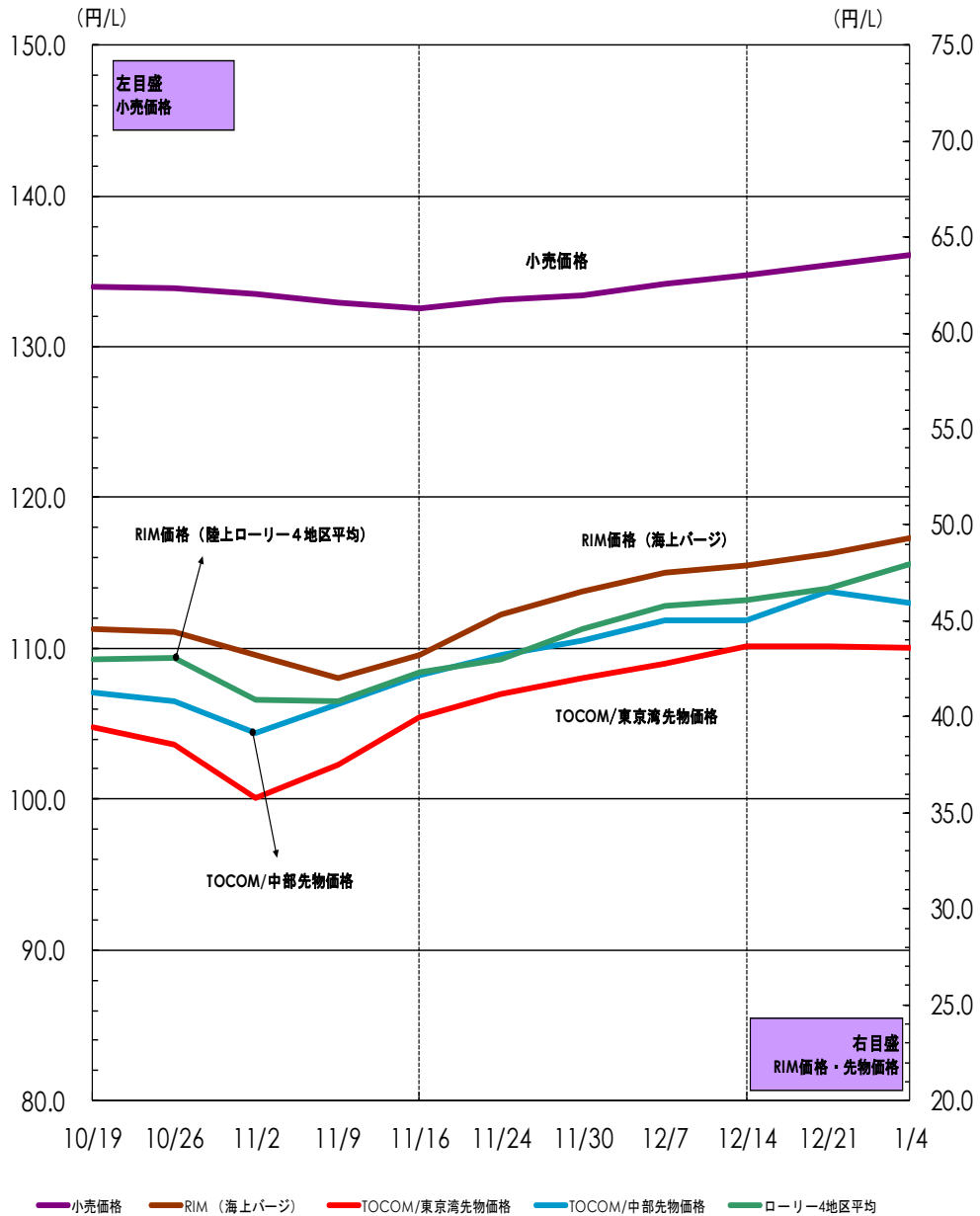
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/10/19 ~ 2021/1/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第27号)の公表は、1/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。